

基本方針	施策	施策の方向性	主な取組	主要事業
学 び を 通 じ た 豊 か な 人 生 と 社 会 へ の 選 元	1 みんなが楽しく学べる場や機会の充実	(1) 人生100年時代を楽しむ学習の場や機会の充実	ア 子ども・青少年の学びの場や機会の充実	青少年のための科学の祭典 お話し会などの乳幼児向けのイベント 児童館事業
			イ 高齢者の学び合いの場や機会の充実	高齢者学級 高齢者いきいき活動 悠友クラブ助成事業
			ウ 多様な世代の学びの場や機会の充実	図書館事業 公民館事業
		(2) 一人一人のキャリア(人生)に応じた学習の場や機会の充実	ア 大人の学び直し等の推進	成人大学講座
			イ 高等教育機関との協働の推進	包括連携協定締結校等との連携協力の推進
			ウ 共生社会実現に向けた学習の場や機会の充実	生活日本語教室 青年学級(みんなの会)
		(3) 情報発信の推進・相談体制の整備	ア 発信方法や発信内容の充実	市HP、公式X、公式lineの活用
			イ 相談体制の整備	サークル案内等 福祉総合相談窓口
	2 学びを活かし地域とつながる仕組みや仕掛けの支援	(1) 学びを活かす人づくりの推進	ア ボランティアの養成・支援	ボランティアセミナーの開催 学校ボランティアの派遣
			イ 活動、学びの中心人物の育成、発掘、伴奏支援	YAサポーター スポーツ推進員研修会
		(2) 学びを通じたつながり・地域づくりの推進	ア 地域と学校の協働の促進	地域学校協働活動 コミュニティスクール 放課後子ども教室
			イ 社会教育団体・NPO法人とのつながりの推進	社会教育関係団体等への後援の実施 社会教育関係団体への補助金の交付
			ウ 文化・スポーツを通じた仲間・地域づくりの推進	文化・スポーツ関係団体への補助金の交付 多種多様なスポーツプログラムの実施
			エ 歴史、文化財、自然(みどり)に触れる機会の充実	文化財センター事業 市史編さん事業 環境フォーラム
		(3) 学びを活かす場所の充実	ア 学びの成果の発表や交流の場の充実	市民文化祭 公民館まつり 市民体育祭の実施
	3 学びとつながりを支える基盤の整備	(1) 生涯学習関連施設等の整備	ア 社会教育施設等の充実	図書館、公民館、文化財センター、清里山荘の施設など充実
			イ 運動施設等の充実	総合運動体育施設、上水公園運動施設などの充実
		(2) ICTを活用した学びの推進	ア デジタルディバイド解消の取組(ネットリテラシーの向上)	公共施設予約等システムの適正管理 スマホ活用講座 消費生活講座
			イ ICTを活用した学習や交流機会の促進	ICTを活用した公民館主催事業の実施 デジタル図書の貸出タイトルの充実

第4章 施策の展開

施策1 みんなが楽しく学べる場や機会の充実

1 人生100年時代を楽しむ学習の場や機会の充実

【現状と課題】

生涯学習を実践したことがある市民の割合は増加傾向にありますが、市民が生涯にわたって学び続けるためには、世代ごとの生活状況に応じた学び方の選択肢を確保していく必要があります。子どもや若者は、学校外での学びの重要性を感じながらも、主体的に学べる場が限られ、学習意欲が地域の中で継続しにくい状況があります。また、働く世代は時間や費用の制約から学習の機会を持ちにくく、高齢者は健康・交通・デジタル環境の制約で参加が難しい面があります。世代を超えた交流の機会も少なく、互いの経験を共有する場を確保していく必要があります。

【方向性】

乳幼児から高齢者まであらゆる世代が学びに触れられる機会を整備するため、子どもには探究活動や地域体験を通じて学ぶ場を広げ、青少年には自己肯定感を育む交流型の学習を推進します。高齢者にはフレイル予防をはじめとした健康づくりや社会参加につながる講座を充実させ、孤立防止や生きがいづくりを支えます。さらに、世代を超えて共に学べる仕組みを整え、多様なライフステージに応じた学びを提供することで、市民が学びの楽しさを知り、学び続けられる学習の場や機会の充実を図ります。

① 子ども・青少年の学びの場や機会の充実

子どもや青少年が主体的に学び、自己の可能性を広げられる学びを目指し、学校教育と社会教育を連携させ、探究活動や地域の文化・自然に触れる体験を提供するとともに、放課後の学習支援を充実させます。さらに、地域の人材を学習サポーターとして活用することで、学びが「教わる」だけでなく「共に創る」体験となるよう整え、子どもたちの自己肯定感や社会参画意識の育成につなげます。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
青少年のための科学の祭典	青少年に科学に親しんでもらうため、科学技術等の分野の実験や工作を一堂に集めたイベントを実施	
お話し会などの乳幼児向けのイベント	図書への興味を持ってもらうため読み聞かせや、おはなし会ほか、各種親子交流事業の実施	
児童館事業	児童館において各種事業の実施	

②高齢者の学び合いの場や機会の充実

高齢者にとっての学びは、生きがいやフレイル予防、社会参加の基盤となります。趣味や教養を深める講座に加え、健康づくりや健康寿命延伸につながる活動機会を充実させます。また、多様な世代と交流できる学習機会を提供することで、孤立を防ぎ、学びを通じた新たな仲間づくりを促進するとともに、高齢者が自らの知識や経験を次世代へ伝える「学びの循環」も推進し、地域の持続的な活力につなげます。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
高齢者学級	各公民館において、高齢者の学びと交流を進め時代に即した課題を選んだ講座を開催（生きがい広場、けやき学級、くりのみ学級、みどり・朴の樹学級、はなみずき学級）	
高齢者いきいき活動	高齢者のいきがい、健康増進等のための講座の開催	
悠友クラブ助成事業	会員のいきがい活動、ボランティア活動への支援として悠友クラブへの補助を実施	

③多様な世代の学びの場や機会の充実

乳幼児から高齢者まで幅広い世代が共に学び合う生涯学習のまちをめざし、多世代交流につながる市民講座やワークショップを開催し、世代を超えて学びを共有する機会を拡大します。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
図書館事業	個人への図書の貸出のほか、学校や団体への貸出、おはなし会等のイベントの実施	
公民館事業	市民や団体への生涯学習の拠点として、公民館各館において貸館事業を実施	

2 一人一人のキャリア（人生）に応じた学習の場や機会の充実

【現状と課題】

小金井市には文化や自然など多様な学びの資源がありますが、それらに気づき、活用できている市民は一部にとどまっています。特に社会人や子育て世代は、興味があっても情報や時間の制約で学びにアクセスしづらく、学び直しやスキルアップの機会を逃しています。また、障がいのある人や外国人住民は、言語や表現方法の違い、移動・参加の難しさなどから学習の選択肢が限られています。多様な立場の人が安心して参加できる環境整備が求められます。

【方向性】

リスキリングは働く世代の成長や再就職を支援するなど、学びは「自分らしく生きる力」を育て、共生社会の実現に寄与します。

社会人のリスキリング、障がいや言語の壁を超えた学びなど、多様なニーズに応じた学習機会を展開します。さらに、障がい者や外国人も学べる環境を整備し、多様な市民が互いに学び合う場を創出します。

① 大人の学び直し等の推進

社会の変化に対応するため、働く世代や子育て世代に対する学び直しの支援を充実させ、市民のキャリア形成や再就職を支援します。また、人生 100 年時代を見据え、学び直しを「自己成長」と「地域貢献」の両面で位置付け、学んだ成果を地域活動や子育て支援などへ活かせる仕組みを推進します。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
成人大学講座	専門的な知識を学ぶための各種講座を開催	

② 高等教育機関との協働の推進

市内外の大学や専門学校などとの連携を深め、大学の研究成果や専門的知識を市民講座や地域課題解決に活かす仕組みを整えるとともに、学生や研究者が地域活動への参加を促します。また、高等教育機関が実施する地域公開講座等を積極的に周知するなど、文教都市の特色を生かしたリカレント教育を推進します。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
包括連携協定締結校等との連携協力の推進	各種大学等との協定を継続し、相互に教育活動の充実に努める	

③ 共生社会実現に向けた学習の場や機会の充実

誰もが学びに参加できる環境づくりは、共生社会の基盤です。障がいの有無や言語の違いにかかわらず学べる機会を拡大し、市民一人ひとりが尊重され、誰も取り残さない学びの環境を実現します。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
生活日本語教室	外国籍市民の日本語学習支援と国際交流を図る	
青年学級（みんなの会）	障がいのある方の自立のための学習活動と交流を図る学級の開催	

3 情報発信の推進・相談体制の整備

【現状と課題】

市民が生涯学習の情報を得ようとしても、どこに何の講座や活動があるか分かりにくいという声が多くあります。ホームページや市報の情報は一方的で、個々の関心や生活状況に合った学びを探すのが難しいのが実情です。特にデジタルに不慣れな高齢者や、地域に來たばかりの転入者、外国人住民などは情報にたどり着けず、相談できる窓口の存在を知らないことが多く、学びの入口を分かりやすく示すことが課題です。

また、窓口となりうる人材の育成と横断的な案内フローの整備、相談後の連携の充実が重要です。

【方向性】

市民が自分に合った学びに自然と出会える環境を構築するため、学びの情報を誰にでも分かりやすく届ける体制を整備します。SNSやホームページに加え、公共施設や図書館での情報提供を充実させ、多言語ややさしい日本語による発信も検討し、市民一人ひとりのニーズに沿った学びを提案できる支援体制を充実します。

① 発信方法や発信内容の充実

市のホームページやSNSの活用を強化し、市民が必要な学習情報にすぐアクセスできるよう、情報発信の手段と場所を多様化します。また、やさしい日本語や多言語対応を進め、外国人住民を含む幅広い層に情報が届く仕組みを検討します。

図書館や公共施設においても、チラシや電子掲示板を活用して学習情報を市民に身近な形で発信します。さらに、動画の活用など新しい媒体の導入も検討し、若者が学習機会を知りやすい環境をつくれます。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
市HP、公式X、公式lineの活用	広く市の情報を周知するため、市からのお知らせやイベント情報、市政情報等について掲載	

②相談体制の整備

学びたい意欲を持ちながらも「何を学ばよいか」「どこで学べるか」が分からない市民に対して、アクセスしやすい情報提供に努めます。また、学びの成果を地域活動やボランティアにつなげたい人へのコーディネート機能の充実を図ります。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
サークル案内等	社会教育関係団体の情報を集約し、ホームページへの掲載等による周知の実施	
福祉総合相談窓口	地域の資源との連携やネットワークづくりなどの地域活動を支援	

施策２ 学びを活かし地域とつながる仕組みや仕掛けの支援

1 学びを活かす人づくりの推進

【現状と課題】

市民の中には、ボランティアや地域活動に関心を持ちながらも、「自分にできることが分からない」「活動の入口が見つからない」と感じている人が多いです。また、意欲ある人が活動を継続するための仲間やサポートが乏しいとともに、若年層や働く世代は、活動時間の確保が難しく、学びを地域に生かす実践の場に参加しづらい現状があります。

また、ボランティア育成や学びの中心人物（コーディネーター）を育成していくための、研修の充実や担い手の確保も課題です。

【方向性】

市民の学びが地域や社会で活かされるようにするために、学んだ知識や技能を地域に還元できる人材の育成が重要です。

ボランティア活動を担う人には研修や講座を通じたスキル習得の機会を整え、初めての人でも安心して参加できる支援体制を強化します。また、地域の活動をリードする中心人物を発掘・育成し、学校や団体との協働を通じて中心人物がその能力を活かせるような場を設けます。学びを活かす人づくりを推進することで、地域全体の学習力と持続的な市民活動の基盤を築きます。

① ボランティアの養成・支援

ボランティア活動の基礎的な知識やスキルを学べる講座や研修を体系的に整備し、初めての人でも参加しやすい環境を整えます。また、活動の成果や経験を発表・共有する場を設け、学びを続ける意欲を高めます。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
ボランティアセミナーの開催	市内の様々なボランティア活動をするためのボランティア講座の開催	
学校ボランティアの派遣	教育活動の充実のため、学習指導補助等の学校ボランティアを派遣	

②活動、学びの中心人物の育成、発掘、伴奏支援

地域の学びや活動を支える「コーディネーター的役割」を担う人材を発掘・育成することは、持続可能な生涯学習の推進に不可欠です。市民の中からリーダー的役割を果たせる人材を見出し、研修や交流を通じてスキルアップを図るとともに、既存の社会教育団体やNPOと協働し、学びの実践を通じてリーダーシップを磨く場を設けます。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
Y A サポーター	小学校高学年から 25 歳くらいまでの若者が公民館で実施する講座の企画段階から参画し、若者自身の問題意識等に基づく主体的な学びを行う。	
スポーツ推進委員研修会	スポーツ推進委員の資質向上のため、東京都や市主催の研修会に参加	

2 学びを通じたつながり・地域づくりの推進

【現状と課題】

地域の中で人とつながりながら学ぶ機会は減少しています。オンライン化や個人化が進み、地域や世代を超えた交流が生まれにくい状況にあり、特に子育て世代や単身世帯、高齢者の一部は、地域との接点が薄く、孤立や不安を抱えがちです。学びが社会参加へと広がるよう、互いの経験を生かし合えるつながりづくりが必要です。

また、学校・地域・社会教育団体・大学・NPO等のネットワーク化を進めてくため、協働を支える中間支援が求められます。

【方向性】

学びを通じたつながりは市民に新たな気づきを与え、学びの成果を活かした地域課題の解決や住みよい環境づくりへとつながります。

学校・社会教育団体・大学・NPOなどとの協働を進め、学びを通じたつながりを強め、地域の多様性を力に変える取組を展開します。また、スポーツや文化芸術活動を交流の場として活用し、仲間づくりや地域づくりを促進します。

① 地域と学校の協働の促進

地域と学校が互いに学び合う関係を築き、地域の人材が学校に入り、キャリア教育や文化・伝統の伝承活動に協力する一方で、学校は子どもたちが地域社会を理解する機会を広げます。また、地域課題を題材にした探究学習を推進し、生徒が学びを通じて地域に貢献する体験を得られるようにします。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
地域学校協働活動	放課後の活動や安全確保、授業補助や課外活動の支援等を地域住民等の参画を得て推進するとともに、社会全体の教育力の向上及び地域の活性化を図る	
コミュニティ・スクール	学校運営協議会が中心となって、教育活動における学校・家庭・地域相互の連携・協力の推進を図り、「社会に開かれた教育課程」を実現する	
放課後子ども教室	地域におけるすべての子どもに向けた放課後の安全・安心な居場所作りのための事業を行う	

②社会教育団体・NPO法人とのつながりの推進

小金井市にある文化・芸術・スポーツなど幅広い分野で活動する社会教育団体やNPO法人と連携し、市民が多彩な学びの機会を得られる仕組みを整えます。さらに、団体の活動に若者や外国人住民が参画しやすいよう支援することで、多世代・多文化の交流を促進します。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
社会教育関係団体等への後援の実施	教育、学術、文化の向上普及のため、小金井市教育委員会の後援による実施	
社会教育関係団体への補助金の交付	社会教育団体への補助を行い社会教育の推進を図る	

③文化・スポーツを通じた仲間・地域づくりの推進

スポーツや文化芸術活動は世代や立場を超えて人と人をつなぐ有効な手段です。競技スポーツだけでなく、健康づくりやレクリエーションとしてのスポーツ活動の推進や文化芸術活動に触れる機会の充実を図り、活動を通じた仲間づくり・地域のつながりづくりを進めます。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
スポーツ関係団体への補助金の交付	スポーツ振興を図るため、スポーツ関係団体の運営費・事業費の補助を実施	
多種多様なスポーツプログラムの実施	種の年齢層に向けた各種スポーツ教室等の実施	

④歴史、文化財、自然（みどり）に触れる機会の充実

市の歴史や自然、地域文化に根ざした豊かな資源を学びの題材として活かし、市民が郷土の歴史や文化財に親しむ機会を拡充します。また、市民と協働できる仕組みを整え、文化財を守り次世代へ伝える学びと継承の循環を生み出します。

文化財センターについては、史跡として市の文化財に指定されている背景等を考慮しながら、文化財の展示・保管施設以外の活用等について検討します。

みどりが豊かな本市の特色を活かし、子どもも含めて環境に対する学習の場や機会も提供します。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
文化財センター事業	常設展示コーナーをはじめ、郷土の歴史や文化財に関連する市民団体利用のために、文化財センター学習室の開放を実施	
市史編さん事業	市史について調査・研究してきた成果を学校教育や生涯学習に役立てるとともに、市民の郷土に対する理解と愛情を深める	

3 学びを活かす場所の充実

【現状と課題】

市民が学びの成果を発表したり共有したりする場は限られており、学ぶ意欲の維持や次の挑戦へのステップが生まれにくい状況があります。また、発表の場に参加することが一部の団体に偏っており、個人学習者や新規参加者が入りづらい雰囲気も課題です。成果を地域や社会に広げていくための仕組みづくりが必要です。

【方向性】

学習成果が地域の活力へと広がるよう、学びの成果を発表し合う機会を設け、市民の学びを可視化・共有することで意欲を高めます。展示会や発表会、オンライン配信など多様な形で成果の発信方法を検討し、世代を超えた刺激と交流を生み出します。さらに、地域課題解決や次世代育成と結び付けた発表の場を設計し、学びを社会に還元する循環を築きます。

① 学びの成果の発表や交流の場の充実

市民一人ひとりの学びの成果を発表し、共有できる場を充実するとともに、学習の到達点を可視化することで、学びの意欲をさらに高め、他者の学びから新しい刺激を受けられる環境を整えます。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
市民文化祭	市民による手作りの文化の祭典の開催	
公民館まつり	公民館利用団体が活動の成果を発表する公民館まつりの開催	
市民体育祭の実施	市内外スポーツ施設、大学施設等も利用した市民体育祭の開催	

施策3 学びとつながりを支える基盤の整備

1 生涯学習関連施設等の整備

【現状と課題】

公民館や図書館、運動施設などは市民の学びの拠点ですが、施設が老朽化していたり、使い方が限られていたりする面も見られます。子育て世代や仕事帰りの利用、障がいのある人の利用、外国人住民の参加など、多様な人にとって使いやすい環境にし、身近で気軽に立ち寄れる「学びの場」としての魅力を高める工夫が求められます。

【方向性】

図書館や公民館など社会教育施設を学びの交流拠点として活用できるよう、多世代が利用できる環境を整えます。バリアフリー化やWi-Fi整備、多言語対応など、誰もが快適に利用できる環境整備を進めるとともに、ICTによる予約システムや利用状況公開など施設の利便性の向上を図り、学びを支える基盤を充実させます。

① 社会教育施設等の充実

市民が身近に学びに触れられるよう、図書館、公民館、集会施設などを学びを創発する拠点として、講座やワークショップ、展示の場などの活用を広げます。また、バリアフリー化や多言語表示、Wi-Fi環境整備など、誰もが快適に利用できる施設環境の充実を図ります。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
図書館、公民館、文化財センター、清里山荘の施設などの充実	社会教育施設等の有効活用の推進と施設・設備の整備充実	

② 運動施設等の充実

市民のスポーツ・運動機会を保障するため、体育館やグラウンド、公園の整備を計画的に進めます。また、健康づくりや交流促進の観点から、運動施設の整備・活用を推進します。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
総合運動体育施設、上水公園運動施設などの充実	総合体育館、栗山公園健康運動センター等の管理、整備充実	

2 ICTを活用した学びの推進

【現状と課題】

オンライン講座やデジタル学習は広がりを見せていますが、機器や通信環境、操作スキルの差により、利用できる人とできない人の間で格差が生まれています。高齢者やICT未経験者向けの継続的な学習支援や低廉な通信環境整備、民間企業との連携による伴走支援の仕組みなどが必要です。また、オンラインの学びは交流や仲間づくりが生まれにくく、学びの継続が難しいという課題もあり、ICTを孤立しない学びに変える工夫が必要です。

【方向性】

ICTを積極的に活用し、場所や時間に縛られない学習環境を提供することで、働く世代や子育て世代、高齢者が生活に合わせて学べる仕組みを整備します。また、デジタルディバイド解消に向けた講座や支援を充実させ、ICTに不慣れな市民も安心して利用できるようにします。

① デジタルディバイド解消の取組（ネットリテラシーの向上）

誰一人取り残さない学びを実現するため、デジタルディバイド（情報格差）の解消に向けて高齢者やICTに不慣れな市民を対象に、スマートフォンやパソコンの基本操作を学べる講座を定期的実施し、行政手続きやオンライン学習、情報収集を自立して行えるよう支援します。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
公共施設予約等システムの適正管理	オンラインによる公共施設予約システムの利用により、自宅等で予約できる環境を整備	
スマホ活用講座	シニアのための生活に役立つスマホ活用講座の実施	
消費生活講座	市内の消費者に役立つ情報を提供し、消費者団体との情報交流を図る	

② ICTを活用した学習や交流機会の促進

ICTを活用したオンライン講座やハイブリッド型の学習機会を拡大し、子育て世代や働く世代、高齢者が自分の生活に合わせて学べる、時間や場所にとらわれない柔軟な学習環境を提供します。さらに、オンライン交流会や市民フォーラムなど、学びをきっかけとした世代・地域を超えたつながりの促進を図ります。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
I C Tを活用した 公民館主催事業の 実施	I C Tを活用し、公民館主催事業等の学習機会の 多様化を進める	
デジタル図書の貸 出タイトルの充実	電子書籍の貸出及び充実	